

12月10日

(火) 18時~19時

「腹部単純X線写真の 読影の仕方とその真実2」

～心眼を持って、診断力を鍛える!～

一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属
総合南東北病院
消化器センター長

西野 徳之 先生



<講師紹介>

昭和62年3月	自治医科大学卒業
昭和62年5月	旭川医科大学第三内科研究生(旭川保健所勤務)
平成1年6月	市立稚内病院内科—利尻島国保中央病院内科—旭川医科大学第三内科研究生(旭川保健所勤務)
平成6年6月	利尻島国保中央病院に院長として勤務
平成8年10月	新井病院—旭川医科大学内科学第三講座医員—北成病院勤務
平成12年4月	市立根室病院内科医長
平成12年10月	総合南東北病院消化器センター内科—消化器内科科長
平成19年4月	消化器センター長/現職

日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡指導医、日本胆道学会指導医、日本医師会認定産業医、院内癌登録室室長

<講演内容>

みなさんは腹痛を訴えるすべての患者さんに腹部X線を撮影していますか？
みなさんが思っている以上に腹部X線は多くの情報を有し、臨床ではとても有用で、安全でしかも安価な診断機器です。
時折、通常の外来を受診した患者が重篤感はないにもかかわらず、初診で即日緊急手術になることがあります。
では、そのような症例をどのように診断すべきでしょうか？
もちろん、CTを撮影すれば病態は確認できるでしょう。ですが、重篤感がなければ検査の予約だけで帰すこともあるはずです。
もしかしたら、その晩救急外来に搬送されるかもしれません。
腹部単純X線の撮影により、その診断の気づきを勉強しましょう！病気の気づきと腹部X線の読影の気づき。
そして、何より医療の根底にあるべきなのは、患者さんを治してあげたいというempathyです。
是非、腹部X線を活用して明日からの診療に役立て、患者さんを救ってあげてください！

腹部単純X線はいつ撮影する？ 今でしょ！

「本症例が『腸閉塞』であると
診断できますか？」



- ◆がん治療に携わる医師及びメディカルスタッフを対象に公開セミナーとして開催されます。
- ◆本セミナーは「東北がんプロフェッショナル養成推進プラン」事業の一環となっております。
- ◆本学大学院生は、大学院授業要項で規定する共通必修科目(規定の8)に該当します。



〈問い合わせ先〉 福島県立医科大学附属病院 臨床腫瘍センター がんプロフェッショナル養成支援室
TEL : 024-547-1806 (内5112) mail : yamadaa@fmu.ac.jp